

令和5年度

学校だより  
令和5年4月28日



# さつきが丘

5月号 第359号



## 進化と深化

校長 仲川 由佳理

4月下旬に「おやじの会」主催による、鯉のぼり掲揚のイベントがありました。まるで元気なさつきっ子のように、今日も青空に向かって気持ちよく泳いでいます。おやじの会の皆様、ご参加くださいましたご家庭の皆様、ありがとうございました。また、地域のボランティアの方には、「どきどきルーム」を整えてくださったり、五月人形として兜を飾ったりしていただきました。いつも、温かくご支援くださり感謝申し上げます。

さて、「チャット GPT」の話題を耳にされていることと思います。(進化)することは良いことだと思いますが、時には「???'と考えることがあります。先日、ある会合でも話題になり、100字で書いてほしい内容を提示すると、あっという間に紹介してくれると…。AIは凄いものだと感心して聞いていましたが、人間は考えることをしなくなってしまうのではと危惧するのは私だけでしょうか。確かに学校では、子どもたちは自分のタブレットを活用して文字を打ち込んだり描いたりしながら授業に参加しています。高学年では鉛筆で書くことから、キーボードを打つことが少しずつ増えてきています。時に3次元構造をイメージすることが容易な場合もあり、空間概念を意識するには容易なツールだと感じたり、友達との考えを共有する際に簡単に可視化されたりして、いろんな意味で時短を感じます。

では、コミュニケーション能力はどうでしょう。文字で伝えることと、実際に言葉で伝えることとでは、双方の感じ方が異なることもあります。後者の場合は、話し手の感情(表情・イントネーション・ジェスチャー等)が入り、どんな気持ちで話をしているのかが分かりやすいときがあります。学校は、この人と人とのかわり方を学ぶ場であってほしいと思います。基本的な挨拶と「ありがとう」「ごめんなさい」「よろしく願います」が言える子どもを育てていきたいと思います。「ごめんなさい」にも、頭を下げて伝えたり相手を心配する様子が感じられたりすると、受け取る側も「いいよ」と許してくれる場面が見られます。

このデジタル化が進むことで、教師側の指導の在り方も少しずつ変容しています。目の前の子どもをよく知り、何を求めているのか、考えているのか。顔を見て、しっかり子どもを見つめる教師力をさらに高める必要性が求められていると実感します。上辺だけの指導ではなく、子どもの心に深く響く指導はどうあるべきか(深化)。子どもたちから「わかった!」

「学校が楽しい!」に繋がるように、職員一同、「さつきっ子ファースト」で取り組んでいきたいと思っています。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。